

NAGOYA DESIGN WEEK 2025

ビジュアルコンペティション

受賞者発表



グランプリ

池田 寛美 さま

「名古屋の中にあるデザインを見つけよう」



審査員 MESSAGE

ダイナミックで堂々とした作品であり、一目で見ると惹きつける力がある。画面いっぱいに配置された「名古屋」の文字の中には、キャッチコピーの「名古屋の中にあるデザインを見つけよう」を表現するように「design」の文字が隠されている。名古屋の街を回遊しながらデザインを発見するというイベントの趣旨を、巧みに視覚的に表現した作品である。

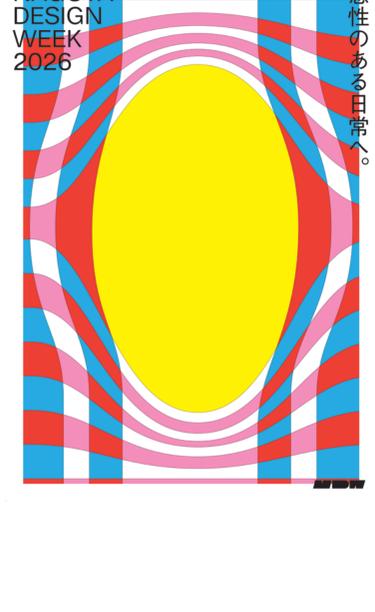
審査委員長
小川 明生



優秀賞

廣崎 遼太郎 さま

「感性のある日常へ。」



審査員 MESSAGE

まず惹かれるのは見た目のキャッチーさ、ポップさ。新たな感性が発芽する前向きな意思や勢いを感じられる。このようなコンペティションにおいてはどうしてもその表現が持つ意味・意図が重視されがちではあるが、本作品は、この広告や作品が街中を覆ったときに、「何か新しいコトが始まる」という期待値を抱かせてくれるものとなっていると感じた。また過去のグラフィック表現を彷彿とさせながらも、カラーリングや野線の使い方など現代的かつ前向きなアプローチで落とし込んでいるところも評価したい点である。

野崎 互



中島 亮二 さま

「デザインしよ」



審査員 MESSAGE

手話の「デザイン」を名古屋城に見立てたアイデアは、地域性と新規性があり好感を持ってました。道具も知識も不要な「手」の動きからデザインを始めるメッセージは、NDWのVISION「デザインが日常と共にあり、誰もがクリエイティブを楽しめる」を見事に表現。さらに、二色構成の洗練されたデザインがメッセージを強調し、美しさもあり評価できるポイントでした。

小野 彩子



審査委員賞

仲野 光尚 さま 「感性のある日常へ。」



審査員 MESSAGE

シンプルでありながら強い存在感を放つ、キャラクターのようにアイコン的なデザインである。日常の中でデザインされたモノやコトに出会うことで生まれる気付きや驚き、感動、そしてワクワクする気持ちをストレートに表現している。

審査委員長
小川 明生



高橋 真一 さま 「感じるままに、ランデブー」



審査員 MESSAGE

「ランデブー」。Allに聞いてみたところ、『フランス語の「rendez-vous（会う約束、待ち合わせ）」を語源とし、日本では「男女のデート」や「違い引き」を意味する言葉として使われてきました。しかし、現在では「死語」とされ、日常会話ではあまり使われません。』とのこと。即ち、現代の生活者にはなかなか伝わらない表現ではあるのだが、それでも尚この言葉が持つ情緒的意味空間は異彩を放っている。そしてその意味空間を最大限に活かすための割り切った平面構成やグラフィック表現が、かつて広告表現が全盛期であったそれを彷彿とし、見る者を置き去りにしつつもえもいわれぬ興味にかられるのである。デザインの谷底へずると引き込まれてしまうそんな作品である。

野崎 互



下橋 康治 さま 「よーいデザイン!! いっしょにやってみよう」



審査員 MESSAGE

よーいデザイン!いっしょにやってみよう」というキャッチコピーは、デザインという行為の本質的な楽しさに立ち返る非常に力強いメッセージで、この明るくポジティブなエネルギーは、イベントの顔として幅広い層を惹きつける力があると思いました。キャッチコピーを大きくセンターに配置し、背景のビビッドなピンクで視覚的に強調。この強い視認性のあるビジュアルはさまざまな場所で開催されるNDWのビジュアルとしてインパクトがある作品だと思いました。

小野 彩子



高橋 弘樹 さま 「このまちはデザインでできている」



審査員 MESSAGE

星ヶ丘テラスという名古屋の文化発信拠点をモチーフに、都市そのものがデザインで成り立っているという強いメッセージを、製図の寸法線や定規のモチーフを用いて明快に可視化している点が秀逸です。建築・空間・まち・人の営みすべてをデザインの視点で再発見させる作品であり、まさに「まちをデザインする」意識を呼び覚ます力を感じました。

丹羽 浩之



グランプリ作品は
NAGOYA DESIGN WEEK2026のキービジュアルとして
名古屋の街に掲出されます。お楽しみに。